

リモートワーク時のセキュリティ課題を解決

多拠点からの
アクセスを一元化し、
セキュリティリスクを軽減

はじめに

**すべてのWebアクセスをibossクラウドに集約し、
セキュリティリスクを軽減する**

リモートワークによる社内外からのアクセスが増大し、ネットワークおよびセキュリティの見直しが求められています。特に、多拠点展開している企業ではそれが顕著です。

ibossクラウドプラットフォームは、Webアクセスをクラウド上に集約し、VPNなしでの通信を実現し、端末の場所や通信先を問わず、セキュリティリスクを軽減します。

本資料では、ibossクラウドプラットフォームにより、ユーザーを既知および未知の脅威から保護し、情報漏洩のリスクや運用負荷を低減させた企業の事例をご紹介します。

INDEX

はじめに	1
すべてのWebアクセスをibossクラウドに集約し、 セキュリティリスクを軽減する	
1. 導入の背景	
未知の脅威への対策が不十分	4
課題1：社外からのWebアクセス制御ができていない	5
課題2：通信の低速化や不安定化により業務効率低下	6
2. ibossクラウドプラットフォームが選ばれた理由	
VPNに頼らず、多拠点でのセキュリティリスクを軽減	8
メリット1：VPNなしでの通信を実現	9
メリット2：送信元IPアドレスの固定によるセキュリティ向上	10
メリット3：顧客ごとの専有のゲートウェイを提供	11
3. 導入の効果	
効果1：VPNを繋ぐ手間がないため業務がスムーズに	13
効果2：多層防御を実現、情報漏えいのリスクが低減	14
効果3：通信環境が安定し、業務効率の向上に寄与	15
効果ビフォーアフター	16
おわりに	17
VPNに頼らず、均一化したポリシーで多拠点での セキュリティ課題を解決	